日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい ニュース

第２０号
（２００１年6月8日）

発行所：〒565-0871　吹田市山田丘１－２
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
電話＆Fax: ０６－６８７９－８０６６
発行人：堀毛一也　　編集担当：廣岡秀一

★★　ＡＪＳＰの継続刊行について　★★

会長　　堀毛　一也

皆様、如何お過ごしでしょうか。アジア社会心理学会（AASP）第４回メルボルン大会も間近に迫ってまいりました。発表を申し込まれた方は、そろそろ準備のために忙しく過ごされていることと存じます。

すでにご存じのように、ＧＤ学会では、1998年から（正確にいえば1997年のAASP京都大会の折から）、AASPとの共同刊行でAsian Journal of Social Psychology(AJSP)を刊行いたしてまいりました。おかげさまで、皆様のご協力を賜りながら順調に巻を重ね、本年４月からは第４巻の発行が始まっております。第１号はすでにお手元に届いていることと存じます。この出版事業につきましては、おかげさまで平成13年度の科学研究費による補助申請が認められ、80万円の補助がいただけることが内定したとの通知も入っております。学会にとってはなにより喜ばしいニュースだと思います。申請に関していろいろとご努力いただいた渥美常任理事に、あらためて厚く御礼申し上げる次第です。

ところで、昨年の総会でも話題になりましたように、AJSPに関しては、ＧＤ学会、AASPと出版社であるBalckwell社の３者間で2002年度までの５年契約が結ばれております。この契約についての詳細はニュースレターの第10号に記載されておりますが、内容としてはＧＤ学会の負担分は、当時の会員数である800部を切らないこと、一方で頒布金額は通常の個人レートでは55ドルするところを30ドルとすることなどが定められております。

現在の発行状況に関しては、手元に2000年度に発行された第３巻に関する詳細なレポートがございます。それによると、第３巻の発行部数は約1350部ですが、実際に頒布されているのは約1000部程度のようです。内訳は、機関購入が74、個人購入が30、AASP会員が51で、ＧＤ学会購入分が850となっています。機関購入（現在は240ドル）は初年度の38からほぼ倍増しておりますが、個人購入（現在は61ドル）は伸び悩みといったところです。緊縮財政の折、厳しい状況と存じますが、それぞれのご所属の機関での購入を、是非ご検討賜れば幸いに存じます。また、ＧＤ分の850部に関しては、現在では１部につき34ドルという価格が設定されておりますが、ＧＤでの購入金額は30ドルのままで、差額の４ドル分はご厚意によりAASPに負担していただいております。

2003年度以降の契約に関しては、2002年度中に結論を下す必要があります。そのためには本年度中に学会としての意向を決定し、AASPやBlackwell社との交渉に入らねばなりません。この問題に関しましては、昨年10月の就任以来、すでに３度の常任理事会を開催し、メール等でも活発な意見交換を行ってまいりました。また、AASPからも、2003年度以降の共同刊行体制に関し、関係を継続するか、休止するか、あるいは協議によって詳細を詰めるか、再契約にあたっての基本的な方針について回答を求められております。関係を継続するにあたっては、さきに述べた４ドル分の負担を取りやめることが条件として明示されております。休止の場合、AJSPの刊行に関する権利はAASPに無条件に移行されることになりますが、継続可能かどうかについては、AASPのメンバー間でも意見が分かれていると伺っております。この件に関しましては、AASP次期会長で本学会常任理事でもある山口先生の働きかけにより、本年10月のＧＤ学会総会での決議を経て、本学会の意向を回答することでAASP側の了承をいただいております。

継続刊行に関しては常任理事の中にも賛否両論がありますが、私見によれば、主要な論点はほぼ以下のようなポイントに集約できると思います。

ＧＤ学会購入分の金額は、日本円に直しますと、1999年度が275万、2000年度は302万でした。これは本学会の総予算の約３割にあたる金額で、本会にとっての金銭面で負担の大きい事業であることは否定できません。それが会費の高さにつながっていることがなにより大きな問題点として指摘されておりますし、外貨による変動というリスクを抱えていることも問題だとする意見もあります。さらに、共同刊行とはいいながら、英文誌という性格上、編集作業は現状ではAASPの先生方に頼らざるを得ませんし、クォリティを維持するために審査も厳しくなりがちで、学会メンバーの執筆による論文数も少ないという難点も指摘されています。Blackwellを通すことによってかかる配布コストの大きさも問題点のひとつです。

一方で、ＧＤ学会が手を引けば、購入部数や負担金額から推測してもAJSPの存続が危ぶまれる事態になることは明らかで、ここまで順調に発展し、オンラインでのアクセスも増えている雑誌を休止に追い込むことはアジアの社会心理学の発展にとって大きなマイナス要因となるという意見があります。また、国内に目を向けても、AASP大会へのお若い方々の参加の多さにみられるように、英語を自由に使いこなす若手の研究者の方々は年々増加しており、そうした方々の貴重な発表の機会となる雑誌を現段階でつぶしてしまうことは、やはり国際的な研究者の育成を目標の一つとする本学会の将来に禍根を残すことになるという考え方もあります。Blackwell社を通じた販売に関しては、レポートをみると国際的な出版社ならではの販売戦略（たとえば「Blackwellの出版物」という一括措置によるオンラインジャーナルへの登録など）がありメリットも大きいという主張がなされています。さらに、科研費の補助が認められたということは、今後この雑誌を継続してゆくことが、公的に価値ある事業として期待されているという解釈も成り立つという考え方もあるように思います。

－－－－－－－－広告挿入－－－－－－－

５月に開催されました常任理事会では、AJSPの継続刊行に向けて、以下のような手順にもとづいて協議を進めることで合意を得ました。１）７月１日に臨時の理事会を開催し、これまでの経緯を説明するとともに、この問題に対する基本方針を決定する。２）ニュースレター等により会員に現状説明をおこない広く意見を伺って理事会の論議に反映させる。３）常任理事会メンバーを中心にアジア社会心理学会の席上でAASPのメンバーに基本方針を伝え、今後の方針について協議する。４）その席で示された方針をもとに常任理事会案を作成し、理事会での協議を経て10月の総会で承認を得る。５）承認された内容をもとにAASP及び出版社との協議に入る。

そこで、会員の皆様には、この問題に関し広くご意見を承りたくお願い申し上げる次第です。地区活動が可能なところは、地区理事の先生方を中心に意見交換会なども開催していただければありがたく存じます。個々のご意見はお近くの理事の先生方にお寄せいただいても結構ですし、会長、事務局、広報等の常任理事に直接ご連絡いただいても結構です。本学会のＨＰには掲示板もございますのでどうぞご活用ください。先に紹介させていただいたファイナンシャル・レポートやAJSP問題に関する主要な疑問点などに関する書類も理事の先生方にお届けしてありますのでご参照ください。

なお、これらの問題とは別個に、松井・村田両常任理事を中心に、本学会の将来計画を検討していただいております。詳細は松井先生からのご案内に述べられていると思いますが、その中には学会の財政に貢献いただけるようなプロジェクトも含まれております。編集業務やニュースレターに関しても現在電子化の可能性を検討しており、見通しが立ち次第、すみやかに会費値下げ案の検討に入る予定でおります。さらに編集委員会では、AJSPへの投稿体制として、これまでほとんど活用されていない日本語による投稿システムの見直しも検討課題として論議を進めております。

これらの問題につきましても随時進捗状況を報告させていただきますので、今後ともご指導・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

－－－－－－－－広告挿入－－－－－－－－－

★★　第４９回大会は熊本大学で開催されます　★★

日本グループダイナミックス学会第４９回大会へのご案内

大会準備委員長　熊本大学教育学部　篠原　弘章

来る１０月２７日（土)、２８日（日）に熊本大学では８年ぶりに、日本グループダイナミックス学会第４９回大会を開催いたします。多数の会員のみなさまのご参加を心からお待ちしています。

熊本は、九州の中心に位置していますので、南は鹿児島の桜島や霧島連山、東は阿蘇山・くじゅうの山々や別府温泉、西は雲仙・長崎というように、各地に観光地域や温泉群がひかえています。学会の開催前後に遠く足をのばすこともできます。大会期間中は、夏目漱石ゆかりの家や熊本城、水前寺公園の散策も楽しい思い出となることでしょう。大会初日には、学内での懇親会を予定しています。前回と同様に、熊本らしい料理やお酒等を最後まで十分満足いただけるように準備いたします。発表を予定されていない方々も多数お誘いのうえご参加ください。

今年の秋は同じ１０月に、産業・組織心理学会、社会心理学会が本ＧＤ学会よりも先に開催されますので、熊本大会への参加人数への影響が懸念されますが、準備委員会のスタッフ全員が立派な大会となるように努力いたします。

今回の大会ではロングスピーチ４件、ショートスピーチ３６件、ポスター発表４１件、英語セッション４件の計８５件となっています。今年はアジア社会心理学会が７月にメルボルンで開催され、発表への影響が懸念されましたが、ほぼ例年並みの発表数となりました。このほかに入会手続き中で発表予定の方々１０数名おられますので、最終的には９５件前後となることが予想されます。今回は新しい試みとして英語スピーチ会場を設け、ささやかながら国際化への対応を試みることにしました。このことをメルボルンでのアジア社会心理学会で第４９回ＧＤ熊本大会をＰＲする予定でいます。

第１日目の午後は、２１世紀のアジアにおけるグループダイナミックス（仮題）として海外からのシンポジストを交えたシンポジウムを企画しています。また、第２日目の午後には、今回から理事会主催のワークショップとして、若手研究者のスキルの向上を目的としたものと、実践家との交流ワークショップの２種類を予定しています。スキルアップ目的のものは、２つのテーマが予定されています。各テーマは、いずれも先着３０人程度の受講者を対象に演習形式でおこなわれます。いつもは聞けない他大学の先生から、直接に話をきけるよい機会となるでしょう。

さわやかな秋の熊本大会に多くの方々のご参加をお待ちしています。

なお、本大会に関連するお問い合わせは、ご遠慮なく下記へご連絡ください。

〒860-8555　熊本市黒髪２－４０－１　熊本大学教育学部学校教育（心理学系）
日本グループダイナミックス学会第４９回大会準備委員会
Tel&Fax096-342-2639（心理図書室）　準備委員長篠原弘章(TEL096-342-2639)
E-Mail:sinohara@gpo.kumamoto-u.ac.jp

★★　実験社会心理学研究　優秀論文賞受賞者スピーチ　★★

２０００年９月２９日、古畑和孝先生を委員長とする「優秀論文選考委員会」において、実験社会心理学研究優秀論文賞受賞論文が決定されました。今回から若手部門と一般部門の区分をせず、原則として１本を選考することとなっていましたが、選考委員（理事全員）による事前投票の結果に基づいて、選考委員会で協議した結果、次の２論文に決定されました。

高田利武氏「日常事態における社会的比較と文化的自己観-横断資料による発達的検討-」
第39巻1号

竹澤正哲氏「社会的ジレンマの解決において不公正感が果たす役割」　第39巻1号

おめでとうございます。今回は、お二方の先生に受賞のスピーチをお願いいたしました。それでは高田先生、竹澤先生、よろしくお願いいたします。

◆◆◆　*高田利武氏のスピーチ*　◆◆◆

奈良大学社会学部　高田利武

生来、頭脳明敏・体力頑健という程のこともなく、加えて運動神経も鈍い私は、幼少時の運動会以来、凡そ「賞」なるものとは無縁の人生を送って参りました。省みれば、小学６年生の時「書き初め大会」で「建設」と書いて「銅賞」を貰い、中学２年生で「模型とラジオコンクール」に「国鉄モハ73174」を出品し「努力賞」となったことを例外として、「賞」の記憶は全く御座いません。斯様な訳で、今回「優秀論文賞」を頂戴致しましたことは、不肖私にとって将に破天荒の驚嘆事と申すの他無く、潮の如き感激に怪しく胸は躍り、歓天喜地の至境に達しております。

然るに、過去に私の得た２つの「賞」は、何方も不幸な結末に至りました。「建設」は展示後間もなく弊履の如く廃棄せられた一方、「モハ73174」は展示会への送付途上、郵政当局の乱暴なる扱いによって粉砕せしめられ、共に極く短命で無惨な最後を遂げたのです。依ってこの前例に徴する時、２度あることは３度あるの喩え通り、今回の「論文」も亦同様の運命を辿る恐れ無しとせず、之を深く憂慮する処であります。

その故蓋し如何とならば、当該論文は先行研究に滅多矢鱈に対象者を加えたのみの腕力戦の結果であり、頭脳よりは寧ろ筋肉の産物と申すべく、創意工夫に欠ける嫌い大と私自身評価している為であります。嘗て類似の発想と方式に則った研究を某学会誌に投稿した処、独創性皆無との理由で不採択とされた経験を持つ私は、固より今回の受賞を衷心より名誉に存じております一方、真に「優秀」な論文が昨今の実社心研誌上に乏しいのではないかとの危惧の念を禁じ得ません。

折角の賞を戴き乍ら斯かる不遜の言辞を弄し恐縮に堪えませんが、敢えて率直な処を述べさせて戴きました。

◆◆◆　*竹澤正哲氏のスピーチ*　◆◆◆

マックス・プランク人間発達研究所　竹澤　正哲

＜論文賞を受賞して＞

実験社会心理学研究第39巻1号に掲載された論文、「社会的ジレンマの解決において不公正感が果たす役割」に対し、昨年、日本グループ・ダイナミックス学会から優秀論文賞を頂いた。初めての投稿論文であるだけに、今回の受賞は大変うれしいできごとだった。論文執筆時、北海道大学社会心理学研究室において指導して下さった方々、また、学会発表などの際に有益なコメントを下さった方々に、改めてここでお礼を述べたい。

＜マックス・プランクって？＞

さて、私は現在、ベルリンのMax Planck Institute for Human Developmentにpost-doc researcherとして滞在している。この原稿は「受賞スピーチ」ということで依頼を受けたのだが、この場を借りて近況報告をさせていただきたい。

この研究所には4つのセンターがあるが、私はGerd Gigerenzer教授率いるCenter for Adaptive Behavior and Cognitionに所属している。リーダーであるGigerenzerは、90年代後半からPsych. Rev.に掲載された一連の論文や、99年に出版された“Simple heuristics that make us smart”という本を通して、Tversky & Kahnemanに対抗する、意思決定研究における新たなパラダイムを切り開いた人物である。周知の通り、T&Kによる“Judgment under uncertainty: Heuristics and biases”の出版以来、「人間は誤りを犯しやすい愚かな存在である」という人間観は、80年代以降の心理学を席巻し続け

てきた。これに対し、Gigerenzerは「人間は、環境に適応したヒューリスティクスを用いることで、驚くほど高いパフォーマンスを挙げる存在である」と主張し、「適応」という観点から人間の認知・行動を研究するアプローチを提案している。進化心理学の興隆とも重なり、適応論的アプローチは社会科学、認知科学の中で静かにその勢力を拡げつつある。こうした背景のためこのグループでは、心理学、哲学、経済学、人類学、生物学、計算機科学などの各分野から研究者が集まり、「限定合理性、生態学的合理性、社会的合理性」をキーワードとして様々な共同研究が繰り広げられている。

ここにいて強く感じるのは、適応論が学際的研究を生み出す上で非常に強力な共通言語となっている点である。たとえば、先週までチェコへナメクジ採集に出かけていた生物学者が、音楽認知のニューラルネットワークモデルを作っているAI研究者と一緒に、人間の意思決定について共同研究を行っているのを見ても、共通言語の存在によって、いかにたやすく異分野の研究者が共同研究へと導かれていくのか、良くわかる。

＜あなたは何をやっているの？＞

このような中で、私は、社会的交換に関する発達的研究や、fast andfrugalな意思決定木の開発に関するプロジェクトなどに顔を出しつつ、自分自身の研究として博士論文で行っていた研究を発展させている。当然ながら試行錯誤の連続であり、挫折と開き直りを繰り返しているが、同時に、極めて知的な刺激に満ちた日々を送っている。

★★　第２回常任理事会・第２回常任編集委員会議事録　★★

日本グループ・ダイナミックス学会
2000年度 第２回　常任理事会・常任編集委員会議事録

日時：2001年３月３日　12:30-17:00
場所：筑波大学茗荷谷校舎Ｇ３１１教室
出席者：堀毛一也・渥美公秀・大渕憲一・廣岡秀一・松井豊・村田光二・山口勧

常　任　理　事　会

【審議事項】

広報

ぐるだいニュース２１号以降のニュース配信の方法に関して提案がなされた。会員のメール使用状況やサーバーにおけるパスワードによる情報保護の現状などを含めて議論した結果、次回の常任理事会までに廣岡常任理事が、（１）会員の異動や議事録など会員必読のニュースを実験社会心理学研究に掲載すること、（２）その他のニュースはメーリングリストに掲載すること、（３）徐々にこれら２つの媒体による配信のみに移行することで、通信費などコストを軽減すること、（４）このような移行について会員の意見を集約する方法、といった論点を含んだ原案を準備することになり、継続審議とした。

将来計画

熊本大会における常任理事会主催のワークショップについて、他のワークショップへの参加者にも参加できる時間帯（大会前日か、最終日の午後２つめのセッション）に行うよう大会主催校に打診することになった。内容は、研究方法、発表技法、実践家との交流などとし、準備が進んでいることが報告され、了承された。

社会人を対象とした研修講座の開催に関して、社団法人日本マーケティングリサーチ協会に打診したところ、開催の見込みがあるとのことであったので、松井常任理事、村田常任理事、および、理事１～２名を中心として、試行的に実施し、反響を検討することになった。

学会活動の活発化の一環として、実験社会心理学研究に掲載され優秀論文とされた論文について、Asian Journal of Social Psychology (AJSP)に翻訳掲載することが提案された。AJSPは、当学会との共同出版であるから、実施の可能性はあるが、翻訳支援の問題、二重投稿と見られてしまうことの回避、二重審査の問題なども考えられるため、アジア社会心理学会と共同で検討していくこととし、継続審議とした。

実践会員制度の導入について、具体案が必要であるとの意見が出され、前期常任理事会に提出された案をさらに具体化し、学会として実践活動に注目していくことのポジティブ・ネガティブな影響を考慮した原案を永田理事、八ッ塚理事に提出してもらうよう依頼することになった。

渉外

Blackwellとの契約更新、および、アジア社会心理学会との連携について、堀毛会長、山口常任理事、渥美常任理事が中心となり、Blackwell東京支社、および、アジア社会心理学会の主要メンバーと交渉していくことになった。その際、以下の３点を考慮して交渉することとし、その結果をもとに、Blackwellとの契約、アジア社会心理学会との連携について、次回の常任理事会で引き続き検討することになった。

（１）AJSPを当学会との共同出版とすることは、維持する。
（２）オンラインジャーナルとしての発刊を基本とし、印刷物での提供をオプションとすることによって、経費の大幅な削減を図り、会費の低減を行う可能性を探る。
（３）契約年数を変更したり、機関購入が増えている現状を加味することによって、当学会の負担額を減らし、会費の低減に反映する可能性を探る。

会計・事務

学会事務センターとの契約更改にあたり、新入会員原簿作成手数料や住所変更等原簿訂正手数料などの低減を交渉し、さらに実験社会心理学研究のバックナンバーの処理に関する時限規定の設置などを盛り込むことを提案しながら、堀毛会長と渥美常任理事を中心に契約を更改することを承認した。

その他

アジア社会心理学会メルボルン大会において、学会としてのアピールの一環として、当学会として１つのブースを設け、熊本大会の案内をするとともに、実験社会心理学研究の英文目次を掲示し、さらに、当学会として、国際会員制度（仮称）などの新しいメンバーシップを検討していることを告知するなどの企画を行うことが承認された。準備作業は事務局が担当することになった。

アジア社会心理学会メルボルン大会において、学会としてシンポジウム等の企画を実施することが承認された。山口常任理事を中心として検討することになった。

三隅賞について、総会での決定報告とアジア社会心理学会大会での授賞式だけでなく、今後は、ぐるだいニュースならびにアジア社会心理学会のニュースレターに受賞者の声を掲載し、実験社会心理学研究に受賞の経緯を掲載することになった。

中西印刷株式会社が主催したオンラインジャーナル説明会の経緯が報告された。実現していく方向で中西印刷と連絡をとり、サンプルの作成を依頼したりしながら、常任理事のメーリングリストで問題点と可能性について継続して審議していくことになった。

スクールカウンセラーの採用条件および財団法人・臨床心理士資格認定協会の「大学院指定制」について、と題する書類への対応について、堀毛会長が会長個人の資格で対処していくことが了承された。

【報告事項】

広報

ぐるだいニュース１９号を発行したこと、および、JGDA_Flash（ネット配信による速報）の試験運用を開始しながら、ネット配信に向けたいくつかの試行錯誤を実施してきたことが報告された。

事務局

AJSP第３巻に関する支払いを済ませたことが報告された。
事務局および編集事務局で要した経費が報告され、事務局人件費の使用を滞らせないように申し合わせた。
賛助会員２件、広告主の獲得（１件）について報告があり、ニュースレターおよび実験社会心理学研究誌上への広告を依頼することになった。
会員の入退会について、前回の常任理事会以降にメーリングリストで承認した人数を確認した。

その他

慶弔規定の決定版が回覧された。
賛助会員内諾を頂いた場合の事務手順について、事務局から報告され了解された。

常　任　編　集　委　員　会

【審議事項】

掲載決定

第４０巻２号には、４編の掲載が決定し、２編が決定直前であることが報告された。また、取り下げ、掲載不可となった論文が各１編あったことが報告された。掲載決定が近い論文があることから、発行時期を若干遅らせることが承認された。

投稿・審査状況

前回の常任編集委員会以降、７編の原著と１編の資料が投稿され、審査が進みつつあることが報告された。

審査プロセス

審査結果をある程度定量的に把握し、副査の審査結果をより反映する方法として、評価基準・尺度の導入が提案された。次回の常任編集委員会までに、具体的なフォーマットを作成し、検討することになった。

【報告事項】

実験社会心理学研究に掲載された論文の英訳について、これまでの制度とその利用状況を確認した。常任理事会において関連事項をアジア社会心理学会と共同で検討することとしたので、その経緯を見て検討することになった。

★★　第３回常任理事会・第３回常任編集委員会議事録　★★

日本グループ・ダイナミックス学会
2000年度 第３回　常任理事会・常任編集委員会議事録

日時：2001年5月12日　13:00-18:00

場所：東京大学山口研究室
出席者：堀毛一也・渥美公秀・大渕憲一・廣岡秀一・松井豊・村田光二・山口勧

常　任　理　事　会

【審議事項】

総務

　スクールカウンセラーおよび大学院指定制について、心研連の動きが報告された。厚生省主導の資格に関する動きもあるので、今後も動向を見据えて、引き続き参加していくこと、および、常任理事からも意見があれば、メールも含めて会長まで提示して欲しいとの依頼があった。常任理事会の場では、厚生省が、心理学関係者に無断で「心理」という語を使用するのは疑問であるとの意見があった。

広報

　ぐるだいニュースNo.20を６月初旬に発行することとした。ホームページからダウンロードできる入会申込書がまだ最新版ではないので､至急最新版に置き換えることとなった。

将来計画

１．熊本大会における常任理事会主催のワークショップについて、日程を調整中との報告があり、松井常任理事および渥美常任理事の企画案を熊本に送り、大会２日目に開催をお願いすることになった。
２．社会人研修講座に関して、日本マーケティングリサーチ協会との連携で、９月末に開催することを検討している旨、報告があり、構成の協力を竹村和久日本グループ・ダイナミックス学会会員に依頼することが了承された。企画が固まった段階で、松井常任理事より理事に連絡することになった。
３．実践会員制度の導入は、理事に依頼して原案を作成することになっていたが、国際会員など他の会員制度の導入とも絡めて、再度検討すべきだとの判断が示され、継続審議となった。

渉外

　平成13年度のAJSP発刊に対して、科学研究費補助金800,000円の交付が内定したことが報告された。
　また、AJSPに関する本学会とアジア社会心理学会および出版社（Blackwell）との現在の契約は平成14年度で切れるが、平成15年度以降の再契約に関しては１年前までに決定する必要があり、アジア社会心理学会から再契約の方針について回答を求められていて、本学会としては、次の理事会、総会の決定を待って回答したいことを連絡し、了承してもらっていることも報告された。
　これを受けて、資料に基づき、今後のAJSPおよびアジア社会心理学会との関係のあり方について集中的に審議した。
　その結果、本学会に望ましいあり方で、今後もAJSPをいかに継続刊行していくかという点を中心に、刊行の中止も含めて、多くの意見が出たが、この問題は本学会の会費や予算と直結する重要案件であり、またアジア社会心理学会および出版社との交渉も必要であるので、以下のような方針で慎重に継続審議することが決定された。
　まず、臨時の理事会を召集してAJSPを継続刊行するかどうか、継続する場合のあり方について基本方針を決定してもらう。理事には常任理事会での議論内容を伝え、理事会までに幅広く会員の意見を聴取してもらうように求める。臨時理事会は以下の交渉がアジア社会心理学会のメルボルン大会でしか実現困難なので、その前の時期に実施したい。
　次に常任理事会メンバーを中心にアジア社会心理学会の中心メンバーとメルボルン大会時に交渉して、理事会で決定された本学会の基本方針を伝え、本学会の意向がどこまで実現可能か、また出版社との交渉にどのように臨むのかを協議する。
　この協議結果を受けて、新年度の予算案などとともに常任理事会案を作成し、理事会、

総会に提案し、協議をし、必要があれば修正して決定する。この決定を速やかにアジア社会心理学会に伝え、出版社との交渉に備える。

会計・事務

１．学生会員と在学証明について：学生の定義を「在学証明を取得できる人」とした。ただし、自己申告によって学生会員になることができるものとし、学会に対して、在学証明の提出を義務づけないことを確認した。
２．会員の入退会：入会希望者１０名を承認した。退会希望者１２名のうち、2000年度まで会費を完納している８名を承認した。会費に未納分がある退会希望者については、事務局から、「今年度末に退会処理をする予定であるが、未納分の会費を納入されたい」との勧告文を送付することになった。勧告に応じない場合については、次回の常任理事会で検討することとした。なお、現状では、会費未納のまま退会手続きをとっていない者についても雑誌が送られているので、学会事務センターに対し、未納者への雑誌送付の停止を申し入れることとした。

その他

１．三隅賞規定について、事務局作成の原案と、アジア社会心理学会向け英文を検討し、次回の常任理事会において、完成版を承認し、次回の会員名簿に掲載するとともに、アジア社会心理学会に向けてアナウンスすることとした。
２．三隅賞選考委員を、当学会から、堀毛会長、大渕常任理事、山岸理事、および、アジア社会心理学会から山口会長、K.Leung氏にお願いすることにした。
３．アジア社会心理学会メルボルン大会において、当学会主催のシンポジウムを、"Futureof theAsianJournalofSocialPsychology" と題して開催することにした。
４．次回日程について：７月１日を候補日とし、終了後、同日に、理事会を開催することとした。

【報告事項】

会計・事務

11月から３月までの事務局人件費について報告があった。

その他

１．廣田名誉会員の叙勲に伴い、慶弔規定に基づいて、堀毛会長から祝電を打つ旨報告があった。
２．AASPメルボルン大会での学会としてのアピールの一環として、ＧＤ学会ブース内で機関誌の目次を展示し、熊本大学の会員の協力を得て熊本大会の案内を行う方針であるとの報告があった。ただし、バックナンバーの販売については、学会事務センターの専権事項であるため、調整を行うこととした。

常　任　編　集　委　員　会

【審議事項】

　投稿・審査状況について審議した。
　オンライン審査システム、および、オンラインジャーナルの発行について、国立情報研究所から、サーバーを用意すればソフトウェアを無償提供するとの連絡があり、今後積極的に導入する方向で検討していくことになった。サーバーの設置場所として、中西印刷がいいのではないかとの意見もあり、継続審議とした。

【報告事項】

　第40巻２号の編集を終え、印刷業務に入ったことが報告された。

★★　学会将来計画構想　経過報告　★★

常任理事会では、日本グループダイナミックス学会の将来構想として、以下４種の方向性を設定し、改革や新企画を検討しています。その中で具体化している改革案や新企画案をご報告します。

第１の方向性は、各種情報の電子化です。財政負担を軽減し、迅速な情報伝達と、会員間の積極的な交流を目指して、本学会に関わる各種情報の電子化を目指します。
具体的には、広報担当の廣岡常任理事が中心となって、ニューズレターの電子化や学会ホームページの掲示板機能の強化などの準備を進めています。学会掲載論文の電子記録化も、検討課題となっています。

第２の方向性は、財政問題の軽減です。この方向性に関しては、AJSPの切り離しを含めて議論がなされました。議論の結果は堀毛一也会長からのご報告にあるとおりです。この方向性の中では、先に挙げた情報の電子化の他に、事務委託先の変更と社会人対象の研修講座とを新規に企画しています。
事務委託先の変更は、日本社会心理学会と同様に、学会事務センター以外の業者へ事務を委託し、経費の削減が図れないかを検討しています。日本社会心理学会の状況などを勘案して、今年度か来年度の大会でご提案できないかと考えています。
社会人対象の研修講座は、社会人を対象にして社会心理学やグループダイナミックスの成果を広めることを目指す啓発的な講座です。この講座では、本学会会員を中心とした講師陣が、特定テーマに関する学問成果を講演します。受講生は一般企業の方を想定して、講座は有料とします（ただし、本学会賛助会員の方は無料として、賛助会員の増加を図ります）。
今年度は、本学会だけではこの講座の開催が難しいと判断されたため、他の団体との協賛で講座を開催することを企画しました。具体的には、社団法人日本マーケティングリサーチ協会との協賛で、９月末に講座を開催する準備を進めています（この講座の企画準備には、竹村和久筑波大学助教授の多大なご協力を戴いています）。この講座による収入は、本学会の副収入として、財政問題の軽減に資するものと予想しています。
以上のような改革や新企画を通して、常任理事会では、本学会会員の会費値下げができないかと模索しています。現行（一般会員年12,000円、学生会員8,000円）から、一般会員・学生会員ともに2,000円ぐらいを値下げしたいと考えています。

第３の方向性は、学会大会の活性化です。
学会の活性化のためには二つの新企画を立てています。大会の春開催と、理事会主催のワークショップです。
第１企画として、大会を春に開催することを計画しています。大会を３月から５月に開催して、日本心理学会や日本社会心理学会などとの発表の重複を避け、データの発表期間を短くすることを目指します。早ければ2002年度、遅くとも2003年度大会の春開催を、次期大会で提案する予定です。
第２企画は、理事会主催のワークショップです。このワークショップは、若手研究者の研究スキル向上を目指した「研究法ワークショップ」と、実践家との交流を図る「実践家との交流ワークシップ」を含みます。前者は、大学院のゼミのような形式で、社会心理学やグループダイナミックスの研究法を講習します。後者はグループダイナミックスに関連する実践活動を行っている実践家と研究者の交流を図る場で、この中で「実践会員」や「集団心理士」のありかたを検討したいと希望しています。
今年度大会の開催は、理事会で検討していただく時間的ゆとりがなかったため、常任理事会主催として、大会主催校（熊本大学）に実施を依頼しました。大会委員長のご協力により、大会２日目の午後に、研究法ワークショップを２件、実践家交流ワークショップを１件、それぞれ開催する準備を進めております。今年度のワークショップで一定の成果が得られれば、来年度以降は企画主体を理事会に移行していただきたいと、希望しています。

第４の方向性は、学会誌の審査の公平化ですが、この方向性については、編集委員会において検討中です。

★★　社会人対象の研修講座の開催　★★

将来計画構想の経過報告でもご案内しましたように、常任理事会では、グループダイナミックスや社会心理学の成果を社会に広めることを目的として、社会人を対象にした講座を開催する計画を立てています。今年度は試行的に、下記の内容で、社団法人日本マーケティングリサーチ協会と協賛で講座を開催します。

講座のテーマは「ブランド戦略の心理学」。ブランド戦略に関わる社会心理学における最新の研究成果を紹介します。会期は、2001年9月28日（金曜）午前10時15分から午後6時までで、会場は東京グリーンホテル水道橋（水道橋徒歩５分）を予定しています。講師は、竹村和久氏（筑波大学社会工学系助教授）、杉本徹雄氏（上智大学経済学部教授、非会員）、秋山学氏（大阪教育大学教養学科助手）、丸岡吉人氏（株式会社電通・マーケティング・プロモーション統括局・統合プランニング推進部長）の先生方で、講座のカリキュラムおよびスケジュールは以下のように予定されています。

10:15-10:30	「講座の目的と講師紹介」	
10:30-12:00	「消費者の価格判断とブランド選択」	竹村和久氏
13:00-14:30	「消費者のブランド志向の心理」	杉本徹雄氏
14:45-16:15	「家族の購買意思決定とブランド選択」	秋山学氏
16:30-18:00	「消費者の価値意識とブランド戦略」	丸岡吉人氏

なお、グルダイ会員の予約参加手続きなどは、ニュースレターかホームページを利用して、近日中にお伝えする予定です。また、この講座の計画立案には竹村和久氏の多大な協力を得ました。あわせてご報告させていただきます。

★★　学会ホームページおよびインターネット活用について　★★

本学会のホームページは学情センターの改組にともないサーバ（現：国立情報学研究所・学協会情報発信サービス用サーバ）のアドレスが変更されました。現時点では旧アドレスでもアクセス可能ですが、ブックマークの再登録及びリンク先のURL変更をお願い致します。掲示板もリニューアルされていますが、なかなか活用されていないのが現状です。ご意見ご提案などございましたら、どしどしお寄せください。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/

なお、このページに関するご意見・ご要望は、広報担当常任理事の廣岡（三重大学）もしくはHP担当幹事の三浦（大阪大学）までメイルにてお知らせください。

廣岡：shuhiro@edu.mie-u.ac.jp
三浦：asarin@syasin5.hus.osaka-u.ac.jp

また、本年１月より【日本グループダイナミックス学会・広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash)を試験的に運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。２０００年１２月１５日発行の会員名簿に掲載されていたメールアドレスを仮に登録させていただき（約５００名）、１月１４日から５月末までに学会開催情報・研究会情報を中心に、約２０通のメールマガジンがすでに配信されています。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方やその後取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思いますが、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

jgda_flash@epsycho.edu.mie-u.ac.jp

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/flash.html

で閲覧可能です。
　関連学会の開催予定ならびにシンポジウム、研究会などの情報は、グルダイホームページ中にその案内がまとめられています。詳しくは、

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/etc.html

をご覧ください。

　常任理事会では現在、（１）会員の異動や議事録など会員必読のニュースを実験社会心理学研究に掲載すること、（２）その他のニュースはメールマガジン（JGDA_Flash）で配信するすること、（３）徐々にこれら２つの媒体による配信のみに移行することで、通信費などコストを軽減すること、などを検討中です。また、オンラインジャーナル化や論文審査システムのネット化なども検討を始めています。こういった方向性に関するご意見や、ご提案、また、インターネット活用に関する技術的なアドバイスなどございましたら、是非ともお聞かせ願いたいと思います。

★★　実験社会心理学研究　第４０巻２号掲載決定論文　★★

＜一般論文＞

【原著論文】
大野　俊和　「いじめ」の被害者に対する外見的ステレオタイプ

【資料論文】
河野　和明　自己隠蔽尺度・刺激希求尺度・自覚的身体症状の関係
川西　千弘　顔の知的さが総合的印象に及ぼす効果
小出　寧　　性別受容性尺度の作成
杉本久美子　準拠情報的影響過程におけるGrouppolarization効果
田島　司　　日常の対人関係と実験場面における内集団の成立について

【展望論文】
矢守　克也　社会的表象理論と社会構成主義　－W.Wagnerの見解をめぐって－

【お詫び】

　ぐるだいニュース第１９号にて、上記矢守論文のタイトル中にある「社会構成主義」が誤って「社会構造主義」と表記されておりました。ここに訂正させていただくとともに、矢守先生には深くお詫び申し上げます（廣岡）。

★★　会員移動　★★

　この度、サイエンス社、および、ブレーン出版から、当学会の賛助会員にご関心を持っていただいているとのご連絡があり、早速、事務局より、賛助会員としての入会をお願いしましたところ、ご快諾いただきました。ここにご報告申し上げますとともに、両社に対し、感謝の意を表します。末永くよろしくお願い申し上げます。

◆新入会員

－－－－－－－新入会員情報挿入－－－－－－－

◆退会

－－－－－－－退会者名挿入－－－－－－－

★★　事務局からのお願い　★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

事務局では、実験社会心理学研究の特集号テーマを随時募集致しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集
　事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

◆学生会員会費についてのお知らせと確認【重要】
　前回の総会におきまして、「博士後期課程在学中の会員を含めて、学生会員会費を適用すること（年会費¥8,000）」、および、「学生会員であることは、自己申告によるものとし、在学証明の提出義務はないこと」が決定されました。しかしながら、今年度会費の納入に当たり、若干の混乱が見られました。上記の決定が必ずしも周知されていなかったこと、および、社会人入学などの現状から、学生の定義が必ずしも一義的ではなかったことが原因だと思われました。そこで、常任理事会では、「学生の定義を”在学証明を取得できる人”とするが、自己申告によって学生会員になることができるので、学会に対して、在学証明の提出を義務づけないこと」を確認しました。ご自身の会員カテゴリーにつきまして、ご不明の会員は、お手数ですが、事務局までご一報いただけますようお願いいたします。

★★　広報担当からのお知らせ　★★

◆広報担当は、新刊本に関する情報を広く募集しています。グルダイ会員に紹介したい書籍がありましたら、広報担当までご推薦ください。また、公募情報などもお待ちしております。

◆７月１０日～１３日に開催されるアジア社会心理学会メルボルン大会に参加された方の大会印象記を公募いたします。８月末日までに広報担当まで送付してください。よろしくお願いいたします。

★★　グルダイ学会関係連絡先　★★

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆
　岩手大学人文社会科学部　堀毛研究室
　〒020-8550　岩手県盛岡市上田３－１８－３４　岩手大学人文社会科学部
　電話・Fax：019-621-6842　E-mail：kekehori@iwate-u.ac.jp　QGB03376@niftyserve.or.jp
◆学会事務局◆
　大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
　〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学人間科学部
　電話＆Fax:06-6879-8066　　E-mail：CXC02237@nifty.ne.jp
◆ニュースレター（ぐるだいニュース）の編集・記事の投稿◆
　三重大学教育学部　廣岡研究室
　〒514-8507　三重県津市上浜町１５１５　三重大学教育学部
　電話・Fax：059-231-9329　E-mail：shuhiro@edu.mie-u.ac.jp
◆メールマガジン（JGDA_Flash）へのニュース記事投稿◆
　E-mail：jgda_flash@epsycho.edu.mie-u.ac.jp

（編集後記）■第20号のぐるだいニュースは、堀毛会長によるAJSPの継続刊行に関する議論状況の説明を始めとして、グルダイ学会の将来構想が主として話題になっています。グルダイ学会が抱える課題は大山のように見えますが、なんとかしなくてはなりません。■熊本大会準備委員長の篠原先生よりご報告とご挨拶をいただきました。地理的、日程的なハンディキャップがあるようですが、盛会となることをお祈りいたします。■アジア社会心理学会メルボルン大会が間近に迫ってきました。シンポジウムも含めて全体で220件あまりの発表が予定され、その内、100件程度が日本からの発表だそうです。すごい数ですね。やはり、数の上からは圧倒的に日本の社会心理学者優位なんですね■住所・所属変更等の会員移動情報が今号には欠落しています。時間的な制約から掲載を見合わせました。まとめて次号に掲載予定です。申し訳ありません。（廣）。

－－－－－－－－広告挿入－－－－－－－－－－